

「おとずれ山の会」だより

森づくりを楽しみながら、自然との共生や環境保全を考える

除伐・下刈り進む

見晴らしも大分よくなりました



作業 3 年目のことし、予定していた区域の除伐・下刈りにほぼ目途がつかしました。視界を妨げていた藪や篠竹が拓かれて、

森全体がすいぶん明るくなったように思います。(写真上

は南斜面から飯給・君津方面を望む。)

また、部分的に歩道づくりも始まりました(写真右)。動力や大型機戒を使わないこともあって、この作業は、なかなか骨の折れる労働です。

来年度は、歩道整備のほか、枝打ちや一部の間伐を予定しています。



セラピーの森づくり講座

山武森林研究所で実習

森林の持つ機能の一つである“癒し”を科学する講座が山武市の森林研究所をフィールドとして開かれました。(昨年 9 月から今年 3 月まで 7 回。和靖と順子が参加)。いわゆる“森林浴”



の効果等に関する分野は、まだ明らかになっていないことも多いようですが、アプローチ方法など興味深く思いました。総谷さんお世話になりました。おとずれ

山の森づくりにもこうした考え方を取り入れて進めたいものと思っています。(写真=大地に寝ころんで樹冠を見上げると何か神秘的な感じがします。気持ち不思議に落ち着くようですね。)

1 月 29 日 進捗確認と懇談



年度末を前に県の職員の方(君津農林センター・小林さん)が作業の進捗状況などの確認に来られ、会員の皆さんとしばし懇談していただきました(写真上)。小林さん(左端)ありがとうございました。皆さんお疲れさまでした。

「エコフェスタ」にパネル参加

10 月 11・12 日に長柄アウトレットで行われた「エコフェスタ」に、おとずれやまの会は里山センターの小間にパネルを展示し、日ごろの活動報告をしました。(写真右)



〜〜里山ひとロメモ〜〜

大気中への二酸化炭素排出量は年間 6.3Gt(ギガトン=10 億t)、減少分は 3.1Gtで、差し引き 3.2Gtずつ増加、地球温暖化の大きな要因となっているとされています。減少分の55%は海洋に取り込まれ、45%は陸上生態系が吸収するとのことですが、その陸上では、森林の減少や砂漠化が進んでいます(20 世紀の最後の 10 年間に減少した森林は 9400 万 ha で、世界の森林面積の 2.4%)。排出量が増える一方でこれを吸収する森林が減少するため、二酸化炭素は加速度的に増加してゆくことになります。

私たちにできること、それはせめて「炭素排出生活を見直すとともに植林などによる環境保全に努めること」ではないでしょうか。(k)

〒290-0255 千葉県市原市光風台 4-280

発行：おとずれ山の会 代表 高橋順子

編集：監事(世話役)高橋和靖 Tel.0436-36-3773

E-mail:kitaka@kba.biglobe.ne.jp

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~kofuwinds/>

(「千葉里山センター」のHPからもリンクアクセスできます)

